

「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業 三つのフレームワーク

※教科・領域の特質や本時のねらい、児童生徒の実態等に合わせ、適切なフレームワークを弾力的に適用します。

【問題解決型】

全ての授業の基本形

【技能習得型】

「～できる」を授業のねらいとして設定する場合

【単元型】

「学習課題」から「まとめ」「振り返り」までを複数時間で構成する場合

問題解決型

問題提示
 学習課題
 アクティブ・ラーニング
 まとめ
 振り返り

スーパーの方がずっと安いなあ
 でも、コンビニの来客数は年々増えている。
 なぜ、コンビニにはたくさんのお客さんが訪れるのだろうか。
 「いつでも、どこでも、すぐに」買える。客が買いやすいように売り場や品揃えが工夫されている。
 私は、夜でも開いていることだけがコンビニのよさだと思っていたけれど、売り場や品揃えも工夫していることが分かった。
 コンビニの数が理由だと思っていたけれど、インターネットで調べたら、ほくの予想通りだった。店の数の違いはやっぱり大きい。

技能習得型

問題提示
 学習課題
 アクティブ・ラーニング
 まとめ
 アクティブ・ラーニング
 振り返り

3歩の助走だと物足りない。もっと勢いをつけたい。
 助走の歩数をもっと増やしたいのだけれど・・・
 5歩で跳ぶには、どんなリズムで助走すればよいのだろうか。
 試技や映像を見る。
 いくつかのリズムで試してみる。
 イチ、ニー、イチ、ニ、サーンのリズムで踏み切ればよい。
 自分に合った場を選び、練習する。
 動きを見合い、アドバイスし合う。
 声を出しながら助走したらリズムがよくなってきた。
 リズムよく助走したら、強く踏み切れるようになった。

単元型

問題提示
 学習課題
 アクティブ・ラーニング
 まとめ

2時間構成の例
 〈1時間目〉
 読手力ある意見文A
 読手力に欠ける意見文B
 読み手を説得するには、どのように理由を書けばよいだろうか。
 主張を支える説得力のある理由の述べ方やその効果について話し合う。
 次のように理由の述べ方を工夫するとよい。
 1. 「もし」を使って、対論の弱点を仮定する。
 2. 「しかし」を使って、自分の主張を強化する。
 3. 「例えば」を使って、具体例を挙げる。
 4. 「つまり」を使って、理由をまとめる。

問題解決型

問題提示
 学習課題
 アクティブ・ラーニング
 まとめ
 振り返り

問題提示・教材提示・発問等の働き掛けにより、子どもに「問い(ずれ)」をもたせる。
 子どものもったずれを生かし、内容性・情意性・集団性の高い課題を「問い」の形(疑問形)で設定する。
 疑問形の学習課題に正対した「答え」を子どもとともに教師がまとめる。
 「どのように学んだのか(自分の考えの変容等)」を子どもが自分で振り返る。

技能習得型

問題提示
 学習課題
 アクティブ・ラーニング
 まとめ
 アクティブ・ラーニング
 振り返り

問題提示・教材提示・発問等の働き掛けにより、子どもに「問い(ずれ)」をもたせる。
 子どものもったずれを生かし、内容性・情意性・集団性の高い課題を「問い」の形(疑問形)で設定する。
 疑問形の学習課題に正対した「答え」を子どもとともに教師がまとめる。
 「まとめ」を活用した学習活動を充実させる。
 「まとめ」を活用した結果、どうだったのかを振り返る。「まとめ」に実感が伴う。

単元型

まとめ
 活動のめあて
 アクティブ・ラーニング
 振り返り

〈2時間目〉
 次のように理由の述べ方を工夫するとよい。
 1. 「もし」を使って、対論の弱点を仮定する。
 2. 「しかし」を使って、自分の主張を強化する。
 3. 「例えば」を使って、具体例を挙げる。
 4. 「つまり」を使って、理由をまとめる。
 理由の述べ方を工夫して、説得力のある意見文を書こう。
 理由の述べ方を工夫して、自分の考えを意見文にまとめる。
 書いた意見文を読み合い、相互評価する。
 最初は、理由の書き方が分からなくて、一文しか理由を書けなかったけれど、四つのつなぎ言葉を使ったら、理由を詳しく書くことができた。
 最初は、友達に分かってもらえなかったけれど、四つのつなぎ言葉を使って理由を書いたら、自分の考えを納得してもらえた。